

大湯村は、かつて国内第2位の面積であった八郎湖を干拓し、昭和39年に誕生した大規模専業水田農業地帯。
平均耕作面積は18ha(全国平均は約2ha)で、日本のモデル農村として大規模で先進的な営農を実践。

■ 稲作以外の作付面積を増やしたいが、実際は減少

◆有機栽培、野菜・花き等の高収益品目の拡大

作付面積[ha]

	平成21年度	平成27年度	増減
有機栽培	778	458	-320
野菜・花き	25	22	-3

■ 労働力の確保が難しいことが一因

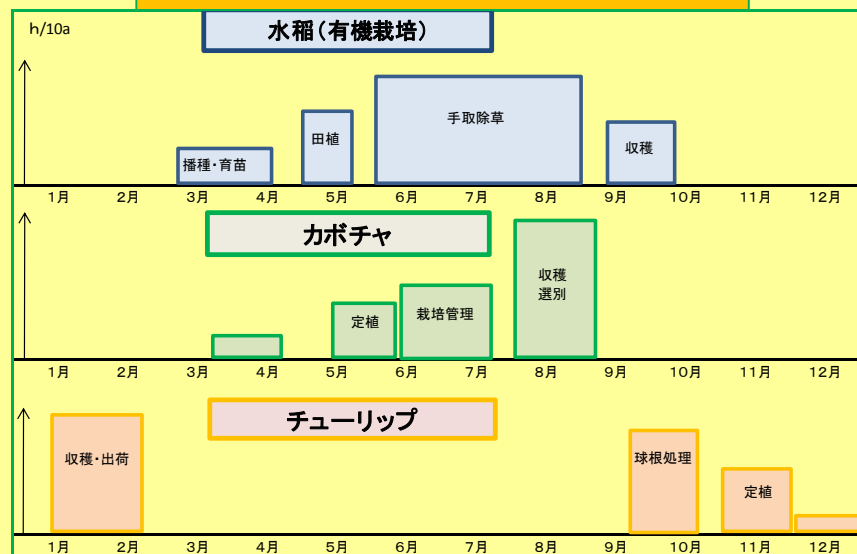
◆稲作以外は、**周辺5市町からの期間雇用**により賅ってきたが、
 人口減少・高齢化が加速。

〈大湯村周辺5市町の人口推移〉

	平成12年度	平成27年度	増減
人 口	86,263人	66,019人	-20,244人
高齢化率	26.5%	40.6%	14.1%

■ 単一の作物でなく、多種の作物に総合的に 対応できる「専門人材」が必要

月別労働時間のイメージ



◎これらの課題解決のために、「外国人」の受入れと活用。

◎ただし、「技能実習」では対応できない、「農業分野の専門人材」(*)の
就労を可能に!

(*)技能実習を修了したレベル